

教育実習が教職に対する学生の考え方に与えた影響について

西住 裕高(生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 柴田 俊和

キーワード：教育実習，教職課程，教員志望

1. 緒言

教育職員養成審議会第1次答申(1997)において、教員養成に関して教職専門科目の単位数を増加する案や、1年次の観察的な実習2週間と3・4年次(短期大学においては主として2年次)の本実習2週間とに分けて行う案が示されるなどの改革が求められている。また教育現場からは、実習生の受け入れをめぐって、実際に教職につきもしないのに、ただ教員免許取得のために、実習生を送り出している大学側に問題があるなど示されている。

しかし、教育実習に行くことで実際の教育現場を体験し、改めて教職について考えることが出来ると思われる。教育実習を経験した後の教職についての考えや、教育実習を通して感じたことを、大学での教員養成に関する授業に取り入れていくことが重要である。このようなことから大学の教職課程の改善が必要であると考えられる。

そこで、教育実習を経験することが、教職に対する考え方にどのような影響を与えたかを検討すると同時に、本学の教職課程の在り方やその問題点と改善点について検討したいと考えた。

2. 研究方法

本研究はAスポーツ系大学の教育実習履修者の4年次生112名に対して、教育実習を経験したことが学生の教職の考えにどんな影響を与えたかを明らかにするために、選択記述形式のアンケート調査を行った。

3. 結果と考察

全体と教員志望である群と教員志望でない群で同じ認識をしている項目も多くあった。ところが「教育実習に行く前と行った後で教員志

望の思いは変わりましたか。」の結果では教員志望に関する意識の違いに大きな差があった。教育実習に行くことで、教員志望である学生の教員志望への思いが増加し、全体と教員志望でない学生の教員志望への思いが減少するということが明らかになった。

しかし、教育実習に行くことでたくさんのことを経験し、多くのことを学び、人としてとても成長することができることも明らかになっているため、教育実習に行くことは、教員志望の意識を高める、高めないに関わらず将来のためにとっても有意なことであると考えられる。

4. まとめ

本研究では、教育実習に行くことで実際の教育現場を体験した結果、必ずしも全員が教師を目指そうと思うのではないということがわかった。また、本学の教職課程に対して満足している人数と満足していない人数がほぼ同じような割合であった。そして、教職課程の授業において、模擬授業の回数を増やしてほしい、授業の仕方を教えてほしいなどの要望が多く示された。改善点としては指導方法を身に付ける授業、指導技術を高める授業を行う必要があるなどが示された。

引用・参考文献

- 1.水田嘉美・小村渡岐(1984)体育学部学生の教育実習の現状と問題点, 東海大学紀要体育学部 14, pp.11-20.
- 2.文部科学省(2012)平成 25 年度教職課程認定大学等実施視察について, 中央教育審議会初等中等教育分科会教員養成部会.
- 3.柴田俊和・深津達也 (2012)教育実習の事前指導と学生の学びに関する調査研究, びわこ成蹊スポーツ大学研究紀要 10 号, pp.77-100.